

☆ 米 国

衣料消費 衣料消費支出割合、3.3%に低下 --- 2015年

米国の消費支出(一人当たり)に占める被服・履き物の割合は、1985年の6.0%から2015年には3.3%に低下した。米労働省の統計によると、被服・履き物支出は2000年位までは伸びを見せており、1985年の1,420ドルから2000年は1,856ドルに増加したが、それ以降は横ばいで推移している。一方、消費支出全体は伸びを続けており、1985年の2.3万ドルから2015年には5.6万ドルに増加。この結果、被服・履き物の全体に占める割合は低下した。所得は増加しているものの、衣料以外の消費に回されていることがわかる。

☆ 米国の一人当たり消費支出

(ドル)

年	一人当たり 消費支出計(a)	衣料・ 履き物計(b)	b/a (%)
1985	23,490	1,420	6.0
1990	28,381	1,618	5.7
1995	32,264	1,704	5.3
2000	38,045	1,856	4.9
2005	46,409	1,886	4.1
2010	48,109	1,700	3.5
2015	55,978	1,846	3.3

(出所) 米労働省

ちなみに厳密な比較は難しいが、日本の場合、被服・履き物の消費支出(家計消費)に占める割合は、1985年の7.2%から2015年は4.0%に低下している。EU27では、Eurostatによると、2006年で5.7%となっている。欧州主要4カ国は以下の通りで、いずれも低下傾向がみられる。低下しているものの、ファッション大国のイタリアは7.0%となお高い数値となっている。

主要欧州国の消費支出に占める被服・履き物の割合
(%)

	1985*	2012
フランス	7.2	4.2
英国	7.4	5.9
ドイツ	7.9	4.9
イタリア	9.6	7.0

(出所) Eurostat

(注) * ドイツは1991年、イタリアは1992年

2015年の米国の被服・履き物支出をアイテム別にみると、婦人・女兒服が全体の4割を占め、続いて紳士・男児服が22.5%、履き物が17.8%を占めている。その構成に大きな変化はみられないが、履き物の割合が上昇しているのが特徴で、一方で紳士・男児服、婦人・女兒服は若干のシェアダウンがみられる。(詳細は巻末資料を参照)

米国の一人当たり衣料・履き物支出(カテゴリー別)

(ドル)

年	衣料・履き物計					
	履き物計	紳士・男児	婦人・女兒	乳幼児	履き物	その他
1985	1,420	364	580	56	184	235
1990	1,618	393	673	70	225	258
1995	1,704	425	660	81	278	259
2000	1,856	440	725	82	343	266
2005	1,886	440	754	82	320	290
2010	1,700	382	663	91	303	261
2015	1,846	422	697	83	354	291

(構成比、%)

1985	100.0	25.6	40.8	3.9	13.0	16.5
1990	100.0	24.3	41.6	4.3	13.9	15.9
1995	100.0	24.9	38.7	4.8	16.3	15.2
2000	100.0	23.7	39.1	4.4	18.5	14.3
2005	100.0	23.3	40.0	4.3	17.0	15.4
2010	100.0	22.5	39.0	5.4	17.8	15.4
2015	100.0	22.9	37.8	4.5	19.2	15.8

(出所) 米労働省